

## 〔趣旨説明〕

# 京の都 宮廷文化のリアル —埋もれた「時」を解き明かす—

同志社大学人文科学研究所第 21 期第 6 研究代表

同志社大学文化情報学部教授 福田 智子

ただいまより同志社大学人文科学研究所 103 回公開講演会「京の都 宮廷文化のリアル—埋もれた「時」を解き明かす—」を開催いたします。総合司会の同志社大学文化情報学部の福田智子です。どうぞよろしくお願いいたします。

ここで本公開講演会の趣旨をご説明します。宮廷文化というと、現代に生きる私たちには縁遠い、過去のものと感じる方が少なくないかと思われます。しかしながら案外、身近なところに宮廷文化は生きていて、私たちに思いがけない体験をさせてくれます。代々宮廷文化を支えるお役目を担った家柄の方々が、現代に至るまでその文化の継承活動をしていらっしゃることはいうまでもありませんが、当時の行事や儀式などの知識、有職を改めて繙いてみますと、平安時代の宮中の出来事から、これまで見過ごされてきた事実が浮かび上がることがあります。また近世の宮中の文化を伝える生の史料は、同志社大学が所蔵するものだけでも、ご紹介していないものが、まだまだあるのです。そこで今回は日本文化史がご専門の末松剛さんによる即位式絵図をめぐる歴史研究からのご講演、近世和歌がご専門の大山和哉さんによる同志社大学

所蔵二条家文書のご紹介のほか、宮廷装束を端正に着付ける道、「衣紋道」のお家柄ならではのエピソードを衣紋道山科流若家の山科言親さんに伺います。また宮廷文化を肌で感じ、埋もれた時をリアルに解き明かしていくための一つの手がかりとして、古典籍に記される文字が読めること、こちらも重要になってまいります。今日は、計算機による変体仮名の解読の最前線を情報科学がご専門の文化情報学部の深川大路さんからご紹介いただきます。

以上の講師陣に加えまして令和元年度第11回日経小説大賞を受賞されました夏山かほるさんをディスカッサントとしてお招きして、パネルディスカッションを行い、それぞれのお立場から宮廷文化を現代に伝える意義を語っていただきます。

なお会場には富士フィルムイノベーションジャパン株式会社文化推進京都工場の吉田謙一さんが古文書の復元複製を、また株式会社 NEWDOMAIN の東那摘さんが、宮廷文化をモチーフにした現代アート作品の3Dを展示してくださっています。会場のみならずにはどうかご覧いただきたいと思います。